

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社 ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(1Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保眺め風光明媚で静かな環境の中「入居者様全員が幸せに過ごせますように」を理念の下、お一人お一人が楽しく生活できるように職員一同支援に努めている。常に自立支援を念頭におき、残存機能を活かした介護にあたることで、認知症の進行防止及び身体の機能維持に努めている。日課においては、基本的な1日の流れはあるが利用者様個々の意向に応じ、柔軟に対応している。レクレーションでは利用者様、職員が共に参加することで楽しく過ごして頂けるよう努めている。又、食事には、最も力を注いでおり、利用者様のお好みや嚥下状態を考慮しつつ常に栄養バランスや旬の食材を提供し食の楽しみを感じて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設から14年目を迎え、理念の「入居者全員がしあわせにお過ごしになられますよう支援します」を全職員が日々の暮らしの中で、人によって異なる幸せの実現に取り組んでいる。前年度から取り入れた個別支援の外出や外食は、入居者に好評で今年度も継続中である。事業所の代表者は医師であり、健康管理から訪問診療など医療連携体制があることは本人・家族等の安心に繋がり、事業所の強みでもある。入居者の何よりの楽しみである食事は、入居者の好みを取り入れバランスを考えた職員手作りの家庭料理で、旬の食材を使い季節感もある。また災害対策に関しては、消防署立ち会いや自主訓練を重ねており、防災意識が高い。職員の接遇マナー向上や笑顔での対応により、入居者の落ち着いた穏やかな表情が窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につな げている	入所者様、スタッフの集うリビングに理念を掲げ理念に基づき日々、入所者様の幸せとは何かを念頭に置き、毎日笑顔で過ごして頂けるように、職員全体で努力している。	開設当初に、代表者と全職員が話し合い決めた理念「入居者全員がしあわせにお過ごしになれますよう支援します」は、玄関やリビング、事務所に掲げている。職員は人によって異なる幸せを考え、個別支援に注力しており、理念を共有しながら、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	総会や公会堂掃除等に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。 又、事業所主催の行事にボランティアの訪問があり、地域との交流を深めている。	自治会の一員として総会や清掃等に参加したり、回覧板や町内役員から地域の情報等を得ている。近隣住民から畑でできた果物のお裾分けもある。また、事業所に音楽演奏等のボランティアを受け入れ交流を図っている。ただし、地域住民の事業所訪問や、園児等の訪問はまだである。	様々なボランティアの受入れ時に、地域住民を招いたり、更なる交流のため、感染症の心配の無い季節に、入居者の笑顔に繋がる園児や児童等の訪問を受入れるなど、地域との交流について更なる取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談、お問い合わせについては、自治会長や民生委員様方を通じて助言、アドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に会議を開催し、施設の実践報告を行っている。又質疑応答や意見交換会を行い、情報収集に努めサービス向上に活かしている。	年に6回、奇数月に開催し参加者の規程を満たしている。事業所の状況や活動報告、ヒヤリハット等の説明後、質疑応答や意見交換を活発に行っている。消防署長による防災についての講話や、様々な方面からの情報をサービス向上に活かし、議事録の記載事項も詳細で充実している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回地域包括センターの方に出席して頂き助言、アドバイス等を受けている。又必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。	申請などは支所に提出し、請求や相談などで市の窓口に出向いている。問い合わせや質問は主にファックスやメールで行っている。市からの案内のある研修は職員が交代で参加し、内部勉強会で報告し内容を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会や研修などを通じて、身体拘束を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアが原則であり、転倒防止の対策として、家族へも説明を行い、居室を移動し見守りの強化を図り、センサーに頼らない取り組みがある。日中は玄関の施錠も無く、言葉掛けは職員同士で注意し合い、抑圧感の無い支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部勉強会に参加し、職員全員が利用者様の人権を尊重し、虐待の無いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深める為研修に参加している。又、成年後見等の制度が必要な利用者様については、制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者様を含め分かり易く丁寧な説明を心掛けており、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時は文章、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族に関しては施設での生活状況は「ゆうしゅん便り」で報告を行ったり、家族会を開催する事により、職員、家族との対話の場を持つようにしている。	家族会で、事業所内行事体験の際、職員の手作り料理試食やバスで海きさらへ出掛けて会食したり親睦を深める機会がある。懇親会の中で家族から、事業所への感謝の言葉はあるが、運営に関して意見・要望はない。運営推進会議時に意見箱を開示しているが、毎回入っていない。	家族等の意見や要望を運営に活かすために、本人・家族の忌憚のない声を収集する方法を検討し、取組むことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議は毎月定期的に行われており、意見を吸い上げる場は設けられている。又、職員全体会議や勉強会の席で意見交換する事もあり、前向きに取り組んでいる。	職員は、ユニット会議や全体会議、勉強会に於いて、意見や提案を反映している。管理者は、職員の育児休暇取得や勤務への希望などを受け止め、シフトに反映している。また、職員の意見で、入居者の体操時にウエイトリング導入の提案があり、購入し活用した結果、入居者の体力維持に効果が表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては現在、介護保険制度に左右する事が大きく、整備には苦渋している。勤務状況の把握は毎月確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に関しては、出来るだけ出席していただき、勉強会で反映するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加して、同業との交流情報交換の場としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前の事前面談にて生活歴など必要な情報を得て上で、利用者個々との対話で少しずつ信頼関係を築き、心身状況の把握理解に努め、傾聴の態度で接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、施設での対応、方針について話し合い不安解消に努め、安心してご利用できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族との面談の場を持ち、十分な話し合いを行った上で、必要なサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様は人生の先輩である事を念頭に、季節の行事実施の際には風習を教えて頂いたり、意見を伺う等、共に楽しい生活が送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者様の変化に気を配り施設での様子をありのままにご家族様に伝え、情報の共有や支援の方向性をご家族の意向、要望を聞き、共に支え合い支援するように努めている。又、毎月の記録も開示も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域に住まれる馴染みの知人の面会や、月命日法要時のご住職様の来訪がある事により交流が継続しており、又、関係が途切れ得ないよう支援に努めている。	馴染みの関係は、契約時の情報やその後本人・家族の会話の中から、情報を得ている。毎月、寺の住職が訪問したり、家族支援にて、行きつけの理髪店、法事、葬儀などに出掛けており、職員は、馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者同士で交流出来る機会を作り、自然とコミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、契約終了後もこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様、ご家族へ要望や意向を伺い、更に日常の行動や言動、表情から思いを汲み取り、その人らしく生活できられる様支援している。	入居者の思いは、個別支援目標として具体的に介護計画に記載し、内容に沿って支援している。思いを表現できない入居者は、レクリエーション時等の様子から推察し、好きなことを把握し支援している。職員は、日々利用者の体調を考慮し、ペースに沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて、生活歴等情報収集を行い、入所後も御本人様、御家族との会話の中から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の情報交換や月1回の職員会議で現状把握に努め、日々体調、行動、表情、言動を常に観察し、個別のサービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様本人、ご家族の面会時に要望意向を確認し、合同カンファレンスを実施し、必要に応じて変更訂正を行い対応している。	職員は、月毎に本人・家族の意向を、訪問時や電話で尋ねている。要望や意向を記載した支援目標に掲げており、職員は日々評価し、現状記録を追記し把握している。毎月のモニタリング、カンファレンス、見直しは、短期3ヶ月、長期6ヶ月であるが変化時は、その都度見直し、家族等の同意もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランサービス実施表や実施状況又、生活状況を記録し職員間で情報共有を行っている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の状態や御家族の意向に配慮しながら、状況や要望に応じて臨機応変に対応し、御本人の満足に繋がるよう、サービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に訪問美容のサービスを受けている。運営推進会議開催時、情報を得ながら地域資源を活用した支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関への受診が出来る様支援している。又、訪問診療を受ける体制ができており、ご家族とも情報を共有し健康管理を行っている。	内科とは医療連携体制を整備しており、定期的な訪問診療の他、訪問看護師の連携で、入居者の毎日の健康管理も充実している。歯科の訪問診療もある。内科以外の専門医の受診は家族対応であり、受診結果は共有している。急変時対応も事業所の代表が主治医であるため、適切な医療が受けられる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の下、担当看護師による定期的訪問と情報の共有で日常的な健康管理を支援している。また、急変や体調不良時は早期に適切な対処が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻繁に面会を行い状態の把握や、御本人様の不安を少しでも取り除けるよう心掛けている。御家族、医療機関との情報交換を密に行い、万全の体制で退院出来る様、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについて事業所の方針を明文化し、入所者様御本人、御家族へ説明を行い同意を得ている。終末期の支援については、入所者様、御家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い、同意の上で支援している。	重度化した場合の対応と看取りの指針があり、入居時に説明を行い同意を得ている。基本的に、看取りは行わないと決めているが、病状に応じて、臨機応変の対応がある。本人・家族の意向の尊重が基本で、関係者が対話を重ね家族等の意向で今年度も二人の看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、緊急時の対応やAEDの使用方法や蘇生術等の説明や講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理や消防計画書を作成し、定期的に消防避難訓練を実施し、確実な避難誘導、通報が出来るようにしている。又、消防署立会いの訓練も年に2回実施し、訓練内容のアドバイスも受けている。	年2回、昼夜想定消防署立会いの災害避難訓練を実施し、訓練の総評や消防署長の自然災害等の講話は、次の訓練に活かしている。毎月の自主訓練や毎日の点検作業も確認できる。運営推進会議の中で、避難訓練を参加者が見学したことで、災害対策への理解が深まり、地域の協力体制づくりに繋がっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に念頭に置き、一人一人の人格を理解し、性格に合わせた言葉かけの工夫を行っている。	声掛けは、人生の先輩として敬語を使うことを基本としている。接遇マナーの研修を重ね、その人に寄り添い傾聴し、尊厳を守るよう努めている。入居者の個人情報の保管場所も適切であり、職員は守秘義務の誓約書を提出し、入居者のプライバシーを守ることを理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入所者様の意思を尊重し発言し易い場面作りを心掛け、傾聴し意思表示困難な方は、表情等で自己決定しやすい言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の生活の流れはあるが、各自の体調や、精神状態に合わせ、ご本人の意思を尊重した支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者様ご本人に衣類を選択していただいたり、整容が出来られる方は見守り、介助の必要な方には意向確認を行いながら支援している。又、定期的な訪問美容を利用される等、日常的におしゃれを楽しむ事ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされており、行事食や、誕生会等入所者様ご本人にお尋ねし、入所者様の希望に添った献立作りに心掛けている。又、食後のお膳寄せ等簡単な作業のお手伝いをしていただいている。	入居者の希望を取り入れた食事は、和、洋、中華と日々バランスよい献立で職員が交替で作っている。おせち等の行事食は手作りで、ホテルのバイキング等、外食の機会もある。家族会で、入居者の人気メニューを提供し感想を聞いたり、ゆうしゅん便りで、食事の楽しい様子を知らせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。又摂取量のチェックを行い健康管理をしている。夜間帯もお茶を準備する等、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、見守り、一部介助などご本人の能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、行動や仕草で察知し、トイレでの排泄が出来られる様支援している。又、極力オムツの使用は控え、排泄の自立支援に向けた対応を行っている。	事業所は、トイレで座位排泄を基本としている。排泄状況は、入居者個別に記録している。職員は、時間帯で排泄状況を把握し、トイレ誘導を行っており、失敗が少ない。夜間は、コールにて職員が見守り、トイレ使用やポータブルトイレ使用等、おむつを使わない工夫がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食材を選定し、小まめな水分補給で便秘予防に努めている。又、適度な日常運動や体を動かすレクリエーションを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日設定しているが、その日の体調や気分に合わせて支援を行っている。又、入所者様、御家族からの要望がある場合は臨機応変に対応している。	入浴は、週2日で体制であるが、清拭やトイレ使用時の温水洗浄便座使用等、清潔を保つよう支援している。入居者の好みにより、ユニット毎に入浴剤の使用を考慮している他、季節湯の工夫もある。車椅子使用の入居者は、男性職員2名で介助することで、浴槽に浸り、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせ活動していただき、ゆっくり休養が取れる環境作りに努めている。又、日常運動やレクリエーション活動で適度な疲労を感じ、夜間の安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新、過去の薬事表を保管して、常に全職員が内容を把握できるようにしている。又、飲み忘れや誤薬等が無い様、内服薬は三重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事や得意分野を活かした共同生活が送れるよう支援している。年2回の外出行事、レクリエーション活動、ボランティアの方々に来訪頂き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば、状況を見て出来るだけご希望に添った外出が実現できるよう支援している。単独で交通機関を利用して外出されている方もあり、お出掛け時の見送り支援を行っている。	季節行事の遠足は、バスを貸切、食事と散策を兼ねて出掛けており家族会の遠足もある。車椅子対応車はないが、車椅子持参で移乗により入居者個別のドライブや買い物支援がある。入居者は、事業所のベランダや玄関前のベンチでの外気浴の他、周囲の散策など楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は個々で支払いをして頂く等、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時はご家族に電話連絡を行っている。又、季節折々ではがきを書いていただき、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節に応じた月々の装飾を行い、花を飾る等季節感を楽しんで頂き、心落ち着く環境作りに努め、居心地良く生活出来る様、工夫している。	窓から臨む絶景は、入居者の癒やしであり、広い廊下で日光浴もできる環境である。壁に入居者手作りの作品が飾られ季節感がある。入居者は、リビングで自身の好きなこと、得意なことを職員と一緒に楽しみ、和やかな雰囲気活気もある。掃除や整理整頓が行き届き、臭気もなく居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、新聞、雑誌など設置をしており、気の合った入所者様同士楽しく会話をされたり、思い思いに過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具等を持ち込んで頂いたり、写真や装飾品を飾っていただきこれまでと近い環境で居心地良く過せるよう努めている。	居室はベッドとクローゼットを設置し、自宅から仏壇、テレビ、テーブル、椅子の他、来客用のスリッパなど愛用品の持参があり、壁には家族からの便りや写真、馴染みの時計を掛け、それぞれ個性のある居室である。職員が換気や掃除を行い、清潔で臭気もなく、寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の心身状態に応じ環境改良を行い、全員が安全に出来るだけ自立した生活が送られるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社 ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(2Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の面会時、意向・希望を伺い、又日常の言動・行動・表情から思いを汲み取り、職員間及びご家族との情報交換を行い支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時に本人・ご家族より、情報収集を行い、入居後は本人の会話、行動から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や言動・行動・表情の観察を行い、又毎日の申し送りや毎月のユニット会議で細かな情報交換を行い、サービス提供を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族の面会時、要望や意向の確認し、毎月の合同カンファレンスを実施し、必要に応じて変更修正を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録を用い実施状況・食事量・生活状況を記録し、職員間で情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その状況に応じて、ご本人の思いに添える様に努め、ご本人の満足に繋がるようなサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬いの気持ちを持ち、お一人おひとりの人格を理解し、その方に合った言葉かけ、対応を心掛けプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思・意向を確認し、自己決定しやすい言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や活動など一日の流れはあるが、ご本人の意思、ご本人のペースに合わせて、本人の意思に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには特に気を配り、毎日気分良く快適にお過ごし頂く様に努めている。日常的におしゃれを楽しんで頂ける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	伝統行事の行事食、誕生会等のメニューも幅広く利用者様の希望に添った献立作りに心掛けている。お膳の片付けは利用者、職員が協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。極端に食事摂取量が少ない入所者様は6回食の提供を行っている。又摂取量のチェックを行い、健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し見守り・一部介助など、本人の能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。又週1回義歯の消毒洗浄を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用は極力減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。個々の排泄チェックを行い、行動仕草を察知し、トイレでの排泄が出来られるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常運動や体を動かすレクリエーションにて体を十分に動かして頂き、又水分補給を促し、便秘にならない様、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的曜日設定しているが、本人ご家族からの要望がある場合は、その時の状況に合わせた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて活動に参加して頂き、体を適度に動かし、食事をしっかりと取って頂く事で夜間安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新・過去の薬事表を保管して常に全職員が内容を把握出来るようにしている。又飲み忘れや誤薬等が無いよう、内服薬は三重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回外出行事やレクリエーション活動、ボランティアの方々に来て頂き、楽しく過ごせる事により気分転換を図っている。又利用者個々の経緯や得意分野を生かした共同生活が送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば状況を見て、出来るだけ希望に添った外出が実現できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は個々で支払いをして頂く等、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時はご家族に電話連絡を行っている。又、季節折々ではがきを書いていただき、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節に応じた月々の装飾を行い、花を飾る等季節感を楽しんで頂き、心落ち着く環境作りに努め、居心地良く生活出来る様、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、新聞、雑誌など設置をしており、気の合った入所者様同士楽しく会話をされたり、思い思いに過せる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具等を持ち込んで頂いたり、写真や装飾品を飾っていただきこれまでと近い環境で居心地良く過せるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の心身状態に応じ環境改良を行い、全員が安全に出来るだけ自立した生活が送られるよう努めている。		